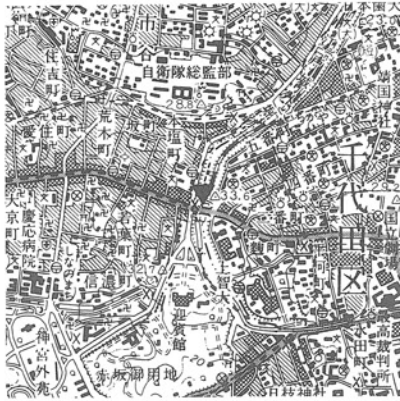


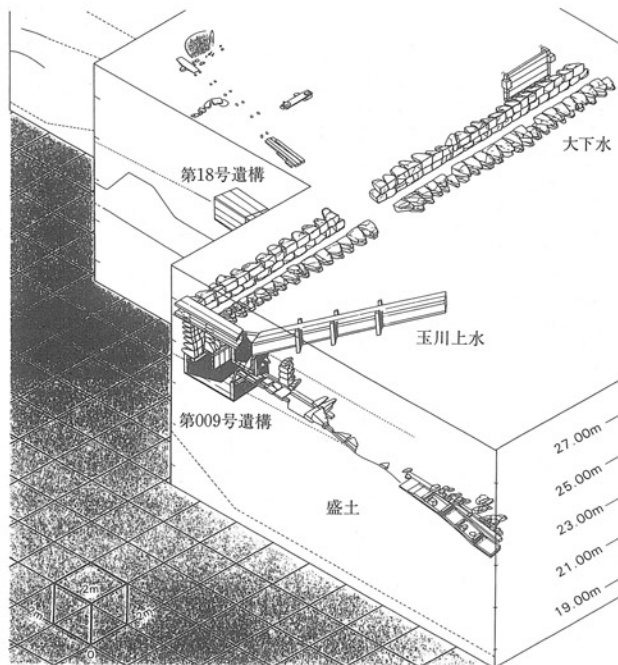
東京・江戸城外堀跡（四谷御門外橋詰・御堀端
通・町屋跡）

- 1 所在地 東京都新宿区四谷二丁目先
- 2 調査期間 一九九〇年（平2）九月～一九九四年九月
- 3 発掘機関 地下鉄七号線溜池・駒込間遺跡調査会
- 4 調査担当者 谷川章雄・池田悦夫
- 5 遺跡の種類 江戸城関連施設跡・町屋跡
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（東京西北部・東京東北部）

本調査区は、現在のJR四ッ谷駅に西接し、営団地下鉄南北線建設工事に伴う事前調査として発掘された四ッ谷駅舎地点にあたる。調査面積は約一七九二・七㎡、調査は、一九九〇年九月から一九九四年九月にかけて断続的に約二二カ月間行なわれた。標高は約二八・四～一八・五mを測る。



遺構復原図

本遺跡は、江戸城から西にのびる甲州街道が江戸城外堀を渡る地点に設けられた、四谷御門の土橋とその周辺にあたる。外堀沿いに南に行くと、喰違土橋、さらに赤坂御門があり、北には市谷御門が位置していた。



今回紹介する七点の墨書のある部材は、第〇〇九号遺構・第一八号遺構に伴うものである。第〇〇九号遺構は木桧、第一八号遺構は

木樋で、両者は同一の水利施設である。墨書は木榑の底板外面に四カ所、木樋に三カ所認められた。盛土の堆積状況から、第一八号遺構の木樋は、寛永一三年（一六三六）に完成した外堀の土手と同時に構築されたと推測される。また、第〇〇九号遺構の木榑は、その後石組榑（第〇〇四号遺構）に変わる。さらに、玉川上水（創設承応三年・一六五四）、大下水（設置明暦二年・一六五六）の遺構に伴う盛土が本遺構の上にある。

従って、墨書を伴うこれらの遺構の時期は、寛永一三年の外堀普請の際、同時に構築された遺構である可能性が高い。また、文献史料から得られたこれらの遺構の時期と遺物との間に矛盾はない。すなわち、外堀構築時の盛土からは織部・志野・唐津・中国磁器青花、本遺構からは初期伊万里、本遺構の上にある盛土からは雲龍荒磯文などの古伊万里が出土している。

8 木簡の釈文・内容

第一八号遺構（木樋）


- (1) 「小四郎兵へ」
2000×390×110 061 墨書—1
- (2)  920×440×400 061 墨書—2
- (3)  1980×440×120 061 墨書—3
- 第〇〇九号遺構（木榑）

(4) 「傳大夫請取三枚之内」

伊□六□□
「」

墨書—4

墨書—5

「久左衛門舟」
「」

墨書—6

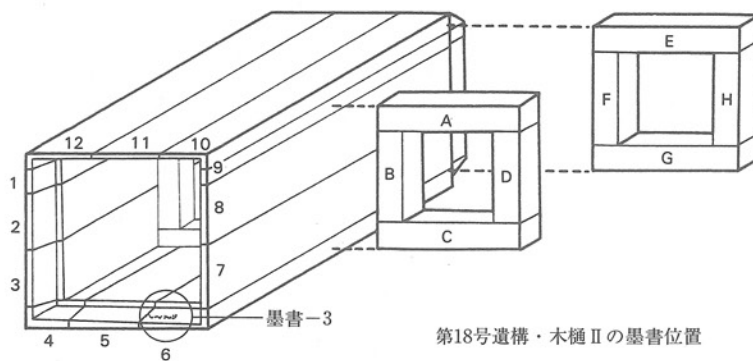
「」

3600×2480×900(内装) 061 墨書—7

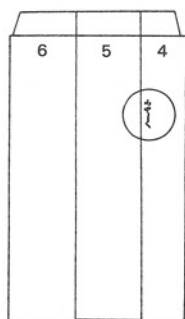
(1)は第一八号遺構の木樋の底面の板の外面に記されていた。樹種同定の結果、この木樋の材はヒノキ属とコウヤマキであったが、コウヤマキは近世江戸において珍しい樹種の一つであるという。墨痕は明瞭である。文字は「小四郎兵へ」と判読されるが、人名と推測される以外の所見は得られていない。(2)は木樋の内側の補強材に記されていた。墨痕は薄く判読できない。(3)は木樋の西側継目の底面の内面に記されていた。墨痕は薄く判読できない。

(4)は第〇〇九号遺構の木榑底板の外面に記されていた。ただし、墨書—4・5は同一部材に記され、墨書—6・7はそれぞれ別の部材に記されていた。墨書—4の墨書は二行あり、右行は比較的明瞭に残っているが、左行は赤外線カメラ（テレビ、写真）により判読された。

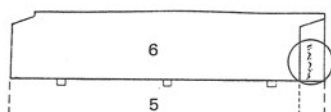
墨書—5は二行あり、左行は赤外線カメラにより読めたが、右行



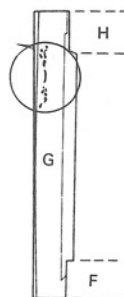
第18号遺構・木樋Ⅱの墨書位置



墨書-1



墨書-3



墨書-2



第18号遺構(木樋)の墨書

1998年出土の木簡



墨書-5



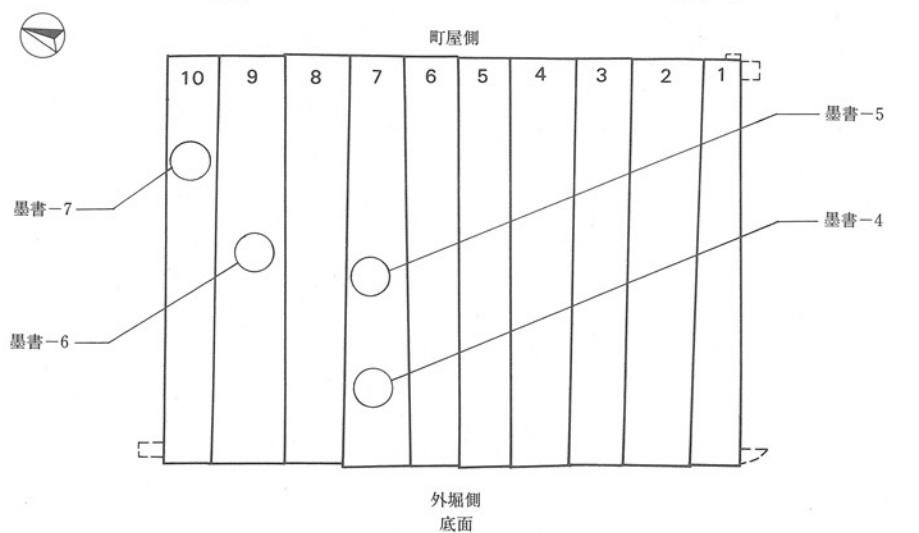
墨書-4



墨書-7



墨書-6



第009号遺構(木柵)の墨書

は墨痕が薄く判読できない。墨書16は三行あり、右行は赤外線カメラにより読めたが、中央と左行は人名と思われるものの、薄く判読できない。墨書17は二行ある。赤外線カメラによっても判読できなかった。

9 関係文献

帝都高速度交通営団、地下鉄七号線溜池・駒込間遺跡調査会『四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡』（一九九六年）

同『四谷御門外町屋跡』（一九九六年）

同『四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡（考察編）』（一九九六年）

（池田悦夫）

本簡研究 第一八号

巻頭言―簡牘研究の今昔―

永田 英正

一九九五年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十五坪 平城京跡 興福寺
旧境内 大乘院庭園 藤原宮跡 藤原京跡 飛鳥京跡 長岡宮跡
長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安宮内酒殿・釜所・侍従所跡 大坂城
跡 大坂城下町跡 森の宮遺跡 長原遺跡 四天王寺旧境内遺跡
長曾根遺跡 入佐川遺跡 宮内堀脇遺跡 祢布ヶ森遺跡 香住エノ
田遺跡 神戸大学医学部附属病院構内遺跡 大毛池田遺跡 駿府城
三の丸跡 駿府城跡 御所之内遺跡 葦山反射炉 大師東丹保遺跡
甲府城関係遺跡 居村B遺跡 北条小町邸跡 宮町遺跡 南滋賀遺
跡 西河原森ノ内遺跡 屋代遺跡群 大猿田遺跡 山王遺跡 市川
橋遺跡 大日南遺跡 志羅山遺跡 西太郎丸遺跡 磯部カンド遺跡
横江莊遺跡 加茂遺跡 豊田大塚遺跡 宮町遺跡 五社遺跡 寺町
遺跡 佐渡金山遺跡佐渡奉行所跡 桂見遺跡 岩吉遺跡 米子城跡
八遺跡 山崎一号遺跡 長登銅山跡 小倉城跡 大宰府条坊跡 呉
服町遺跡 松崎遺跡 下林遺跡Ⅳ区 昌明寺遺跡
一九七七年以前出土の木簡（一八）
塩田城跡

ノヴゴロド白樺文書

B・J・ヤニン

長屋王家木簡三題

森 公章

算木と古代実務官人

鈴木 景二

書評 沖森卓也・佐藤信著『上代木簡資料集成』

大隅 清陽

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円